

平成30年度第3回東成区区政会議 子ども・教育部会

1 開催日時 平成31年3月6日（水） 19時30分から20時25分まで

2 開催場所 東成区民センター大ホール

3 出席者の氏名

【委員】

田中 良和（議長）、末光 京子、茶谷 儀夫、東方 宏祐、永門 武志、鍋田 仁史、福永 美和子、藤井 宣昭

【東成区役所】

井上 徳久（まちづくり担当課長）、松穂 好純（まちづくり・教育支援担当課長代理）、大野 孝文（児童・保健担当課長代理）、太田 全昭（市民協働課担当係長）、石野 靖子（保健福祉課担当係長）

4 委員に意見を求めた事項

平成31年度東成区運営方針（案）及び予算（案）について

5 議事内容（発言者氏名及び個々の発言内容）

【田中議長】 皆さん、こんばんは。改めまして、足元の悪い中ありがとうございます。議長を務めます田中でございます。よろしくお願いいたします。

副議長の板垣さんが所要で来られないということで、ご報告申し上げます。

この部会は、皆さんご存じだと思いますが、「教育環境と子育て支援の充実」に関わって皆様方が意見や提案を述べる会議ということになっております。ちょっとこの進行表とは違うんですが、これから8時まで自由な意見をいただきたいと思います。タイムキーパーでまた「ぼちぼちやで」と言うていただけたと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、前回の区政会議での意見を踏まえて作成されました資料3、平成31年度東成区予算（案）と資料4、平成30年度区政会議における意見対応状況に沿って区役所から簡潔にお願いいたします。

では、よろしくお願いいたします。

【松穂課長代理】 どうも皆さん、こんばんは。市民協働課の教育支援担当課長代理の松穂でございます。

それでは、平成31年度の東成区関連予算についての説明をさせていただきたいと思っております。座って説明させていただきます。

私からなんですけども、お手元の資料3ですね。こちらの東成区関連予算（案）のうち5ページでございます②の教育環境と子育て支援の充実のうち「子どもが育つ環境整備」につきまして、順を追って説明させていただきたいと思っております。

本項におけます主な取組みでございますけども、地域におけるプログラミング教育支援事業、そして、国際理解教育支援事業、子どもの体力向上事業の3事業でございます。この平成31年度の主な取組みの右横のアイコンが示しますように、先ほど区長から説明がありましたSDGsのゴールの4「質の高い教育をみんなに」、そして、ゴールの17であります「パートナーシップで目標を達成しよう」への波及効果を目指して取り組んでまいりたいと考えております。

1つ目の地域におけるプログラミング教育支援事業をご覧くださいませ。先ほど、足立課長より特出しで説明ございましたように、こちらが平成31年度の新規事業ということになってございます。平成29年の3月に告示されました文科省の新学習指導要領におきまして、2020年度より小学校のプログラミング教育の全面実施、つまり必修化することが示されました。2020年度に向けましてプログラミング教育を立ち上げる初期段階にあるわけなんですけども、児童はなかなか日常的にプログラミングに触れる機会が少ない状況でございます。東成区といたしまして、スムーズかつ質の高いプログラミング教育を推進するために、夏休みの特別講座の開催などにより児童が自主的に学習する機会の創出と地域人材を積極的に活用した協力スタッフの育成に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、国際理解教育支援事業につきましてご説明いたします。事業名の下に教育委員会事務局予算とありますように、こちらは区役所の予算ではなく、教育委員会事務局の予算を使って区役所が実施する事業でございます。事業内容は今年度同様に、インバウンドの増加やG20、大阪万博など大阪の国際化が急速に進んでいるという背景のもと、さまざまな国の文化を学ぶ機会をつくる取組みといたしまして、独立行政法人国際協力機構JICAと連携いたしまして、来日中の海外技術研修員との交流でありましたり、海外ボランティア経験者によります出前講座を通じて児童生徒の国際理解教育を進めまして、ひいて

は個々の個性の違いでありましたり、文化の多様性を受け入れることができる一助になるように取り組んでまいりたいと考えております。

一番下の子どもの体力向上事業をご覧くださいませ。こちらも教育委員会事務局予算によります事業でございます。昨年度、29年度に実施いたしましたみんなdeスポーツ教室をきっかけといたしまして、今年度、児童が運動やスポーツに取り組むきっかけをつくり、体力向上を図るための取組みといたしまして、学校ごとのニーズに合わせて体力づくり、そして、水泳、跳び箱、鉄棒など各種目の専門的な知識を持った指導者をお招きいたしまして、直接指導してもらえるように、本事業に再構築をいたしました。また、事業者とそれから学校との意見交換会を実施するなど、一過性にならないように、指導者のノウハウを学校での指導に取り入れてもらうように工夫をしているところでございます。次年度は区内11小学校全校で事業展開をする予定となっております。

本事業に関わりまして、参考でございますけども、先ほどの資料1をご覧くださいませ。運営方針の案でございますけども、8ページの計画のところ、一番左にある計画とあるところですね。その囲みでございます前年度までの実績の項目ですね。直接指導の回数につきまして、今年度事業は全て終了いたしましたので計画どおり実施できましたことから、ここに予定とあったんですけども、これを削除いたしました。資料2の上から4つ目のところの具体的経営課題の2の2-1-2ですね。こちら「66回(予定)」とあったんですけども「予定」を取ったという形になってございます。

【松穂課長代理】 最後に、資料4の区政会議における意見への対応状況でございます。一番左の「いただいた意見」の番号の1番をご覧くださいませ。

プログラミング教育について、生徒数に対してタブレットの数が少ない場合があると聞く。児童数を予測して全生徒分のタブレットを確保すべきではないかという意見に対しまして、一番右側の「対応内容」でございます。プログラミング教育も含めました教育ICTの活用については、現在、教育委員会事務局においてタブレット端末の整備はもとより、ICT環境面や現場教員への支援などとあわせて総合的に検討されているところでございます。タブレットの端末の配備は各校40台が基本となっておりますけども、活用方法など検証しながら議論をされています。東成区ではグループで使うなど多様な使い方の好事例を学校長と共有するとともに、教育委員会事務局に対しましても機を捉えて意見交換するなど効果的な活用が進むように働きかけているところでございます。

次、2番の項目でございます。意見といたしまして、学校協議会への地域の参加につい

て、各小学校によってばらつきがあると思うが、報告を受けるだけのことが多く、地域が参加する意義を見出せない。また、報告書を作ることで先生の本業以外の部分での負担が多くなっているのではないか。内容や進め方を工夫してはどうかという意見に対しまして対応内容でございますけども、学校協議会は大阪市立学校活性化条例に基づきまして、全ての学校園に置くこととされた組織でございます。保護者や地域住民の皆さんの学校運営への参加を促進し、その意向を反映することによりまして、開かれた学校運営を実現し、よりよい学校教育を推進しています。開催状況や課題を区として把握するとともに、会議の進め方や内容の充実に向けまして学校長と意見交換を進めますということでございます。

いずれも現在既に対応しているところでございますので、中央の①平成30年度対応、そして、②31年度も引き続き対応してまいりますので、どちらも〇とさせていただきます。

私からの説明につきましては以上でございます。

【田中議長】 ありがとうございます。大野代理。

【大野課長代理】 保健福祉課、児童保健担当課長代理の大野と申します。よろしくお願ひします。座って説明させていただきます。

私からも資料3の平成31年度予算(案)の6ページをおあげいただけますでしょうか。②教育環境と子育て支援の充実の「子育て支援」についてご説明させていただきます。

まず、最初の子育てネットワーク構築支援事業についてでございますが、そのうちの1つ目の点、「ひがしなりっ子すくすく・つながるクラブ」による子育て家庭と地域のつながりづくりの支援という部分につきましては、この場でもご説明させていただきました子育て家庭と地域のつながりを高めることを目的とした、ひがしなりっ子すくすく・つながるクラブのクラブ登録カード及びリーフレットの作成費用などの経費を計上させていただいております。

次の点の子育て支援情報の発信やイベントの開催につきましては、子育て支援機会の充実を図るため、幅広い子育て家庭が参加できるよう、子育て支援のネットワークとの連携によりまして子育てイベントのポスターでありますとかチラシの作成費用を計上させていただいております。

次の大きな四角の発達障がい児支援事業についてですが、1つ目の心理相談員による相談体制の確保につきましては、乳幼児期における安定的な相談体制を確保し、適切な療育に早期につなぐ役割を果たす心理相談員、これは臨床心理士なんですけども、そちらの人

件費を計上しております。

次の発達障がいサポーターによる校外学習時等の支援につきましては、学齢期の児童につきまして、安心して学校生活を送ることができるように校外学習時等の付き添い支援を行う発達障がいサポーターを区内市立小中学校に派遣しており、そのサポーターに要します報償費などを計上しております。

次の区民啓発講座の開催につきましては、発達障がい当事者、また当事者にかかわる人々や関係機関に対し、発達障がいに関する理解を深めるための啓発講座における専門家の講師料を計上しております。

最後のその他の事業につきましては、利用者支援専門員2名ということで、教育、保育、その他の子育て支援の情報提供、及び必要に応じて相談、助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施する利用者支援専門員2名に係る人件費を計上しております。

続きまして、資料4をご覧くださいませでしょうか。資料4なんですけども、ちょっと今から配布物を配らせていただきます。すみません。資料4についてであります。前回の部会で委員の皆様方から、番号3に記載させていただいております内容のご意見を頂戴いたしました。まず1点目は、すくすく・つながるクラブの協賛店舗数のさらなる拡大というご意見についてでございますが前回、この場でも配布させていただきました「ひがしなりだより」、広報紙の特集記事、平成30年12月号を見た商店の方から申し込みを受けるなど広報紙の効果が非常に高く、また、引き続き東成区商店街連盟連合会様のご協力のもと各商店への協力を依頼しているところでございまして、店舗数拡大につながっております。前回のこの場で協賛店舗数30店舗とご報告させていただきましたが、現在は41店舗となっております。今後も一層の拡大を目指しまして、引き続き商店への協力を求めたいと考えております。

2点目につきましては、「つながるクラブ」を配っております主任児童委員の存在を区役所からもっとPRすべきではないかというご意見も頂戴いたしました。今お手元にお配りしておりますこのカラー刷りの部分につきましては、新年度に配布させていただきますリーフレットでございます。それをめくっていただきましたら、右手に「主任児童委員とは」というところがございます。今回は、こちらで主任児童委員の紹介を大きく目立つところにレイアウトをさせていただきました。もう1部コピーをお渡しさせていただいております。これにつきましては原稿を配布させていただいております。前回のこの場で配らせていただきました資料のコピーでございます。こちら1枚開いていただければ左手に黄色

のマーカ―をさせていただいております。こちらもちよつとアピールが小さいというご意見もいただきましたので、今回、カラー刷りの右手に書かせていただいております「主任児童委員とは」という説明にさせていただいております。今後も引き続き、身近な地域の相談者であります主任児童委員を知ってもらい、相談しやすくなるよう、さまざまな機会でもPRしてまいりたいと考えております。

もう1点だけ、カラー刷りに協賛店一覧というのを挟ませていただいております。これが先ほど説明させていただきました41店舗の一覧表でございますので、また参考に見ていただければと思います。

私からは以上でございます。ありがとうございました。

【田中議長】 ありがとうございます。

<部会での自由な意見交換>

【田中議長】 はい。それでは、皆さん、意見を頂戴したいと思います。

【東方委員】 子ども・教育の全生徒分のタブレットを確保すべきでないかという意見が出ているんですけども、これ30年度、31年度は一応丸で予算措置はないということはまだ入ってこないということやね。そういうのにはタブレットはまだ入らないということ。

【井上課長】 はい。1校40台が基本ということで、それはもう東成だけじゃなくて、大阪市の小学校全部、中学校も含めて一緒なので、追加で増えるということはないです。

【東方委員】 ちょっと僕、間違うとったらごめんやで。大阪市長、1人1台タブレットを配るというような話があったかなと思うんやけども。

【井上課長】 それは言っていないと思います。

【東方委員】 もう家に持って帰ってでもやってもらえるように1台ずつ配るような話をしたはったと思うんやけど、間違いですか。

【井上課長】 今の市長ですか。

【東方委員】 何年までには言うてないけどもね。

【井上課長】 前回のこの区政会議が終わってから、市役所、教育委員会にも確認をいたしました。方針としては、やっぱり1校40台を基本にしますと。1人が1台を持って勉強するという機会よりも、2人とか3人で1台を持って、1人が進行しながら操作をする

とか、そういう進め方が今、結構多い進め方のようでございますので。

【東方委員】 基本的には教育委員会はそういう方向で進めてるということですか。

【井上課長】 はい。

【東方委員】 高いものやからね。予算措置じゃ、なかなか。

【茶谷委員】 あと、このプログラミングですけども、夏休みに行くということでしたが、夏休みでしたら希望者だけということになるんですか。

【井上課長】 はい。授業で行うとしますと、全ての学校で全ての機会となりますと、かなりの量の、タイミングも増えてまいりますので、まず、今年の4月から小学校ではプログラミング教育が導入されるといいましても、決して子どもがプログラムを作るわけではなくて、プログラミングという考え方で物事を進めましょうということが進められるので、そのまずは初年度ということで、区役所としてはこの夏休みに1つのタイミングを設けていきたいなと思っております。

【東方委員】 それは基本的に全生徒対象ですか。そこから希望者だけ。

【井上課長】 そうですね。

【東方委員】 1年生から6年生か。

【井上課長】 はい。

【東方委員】 希望者から集めるわけ。

【井上課長】 もっと高学年層にはなると思います。

【東方委員】 そやったら、もうはっきり高学年いううたい文句のほうが。1年生ではなかなかそんなの無理でしょう。

【井上課長】 はい、1・2年生ではまだ少し早いかな。

【東方委員】 1年生でも今やる人おるわ。

【茶谷委員】 これ、人数的には何人ぐらいいけるんですか。希望者ということで。

【井上課長】 まだまだ学校さんと詰めていかなあきませんので、そんなに大人数の教室がつかれることは逆にはないと思います。

【東方委員】 基本的に高学年で希望者は1年生でもいいといううたい文句で集められたほうがいいん違うかなと思う。もう全員いうたら。

【井上課長】 いろんな校長先生と詰めていかなあかんことですけども。

【田中議長】 学校によって生徒数が違うんでね。例えば、6年全員来ても百何人おるところと30人しかおらんとことかね。それは集め方も違うと思いますね。それはもう学

校と話してもらえないですかね。

【井上課長】 そうですね。はい。

【東方委員】 だから、基本的には高学年って話しても理解は早いし、優秀な1年生はおるということも確かにいてるかもしれませんが、それはもうごくまれなんで、基本的には高学年で、希望者は1年生でもいいですよという体で進めんと、やっぱり多ければどこかで切らなあかんいうふうになるんですかね。

【井上課長】 はい。

【東方委員】 だったら、やっぱり何年生。高学年の。

【井上課長】 いただいたご意見もまた校長先生と相談する1つの意見として進めて行こうと思います。

【東方委員】 あまり学校が別にやっているというのじゃなくて、やっぱり東成はこういうふうにしていますということをはっきりやらんと、学校は学校、別々っていう話になったら、そらまた僕らが話するときに校区わからなくなってくるから、東成としたらこういうふうにやりますよという形を置いて、いって、やっぱり進めたほうがいいの違うかなと思うね。我々としては東成はこうやっていますよと。

【井上課長】 いろいろやることいっぱいある中で、英語もしなあかん、いろいろなことをしなあかん中で東成はちょっとプログラミングをやっていききたいとそういうふうになっています。

【東方委員】 だから、プログラミングで東成はこういうふうになっていますよということで、各学校でこういうふうにやってもらえることがわかれば、我々としても「ああ、校区でこうやっていますよ」と。微妙に変わるかもしれませんがね。けども、東成としてはこうやっているとわかれば話も進めやすいと思うんですよ。

【井上課長】 はい、わかりました。

【鍋田委員】 資料の単純な質問なんですけど、この資料3の6ページの真ん中よりちょっと下の発達障害児支援事業、心理相談員さんを確保していきはるということで、それはすごく僕、いいことだなと思うんですけど、心理相談員さんは何人ぐらいになるんですかね。

【大野課長代理】 相談員の数ですかね。

【鍋田委員】 はい。

【大野課長代理】 心理相談員は1名です。

【茶谷委員】 学校を当番で回るような形ですか。

【大野課長代理】 当番で回るということはないんですけども、例えば、1歳半健診とか3歳児健診のときにちょっと。

【鍋田委員】 横にいてはるとか。健診の場所にね。

【大野課長代理】 そうですね。健診の会場に在駐させていただいておまして、診察された先生方とか面接した保健師さんからちょっとお話してくださいという方については相談員につないでいただいたりしています。

【鍋田委員】 相談受けたらどうですかいう。ああ。そういうシステムか。

【大野課長代理】 はい。していただいています。

【田中議長】 よろしいでしょうか。

福永委員、何かご意見ございませんか。

【福永委員】 いや、大丈夫です。

【田中議長】 大丈夫ですか。

【鍋田委員】 健診のときの対応の相談員さんとか。

【大野課長代理】 そうですね。健診の相談とか、あとは発達相談という。

【鍋田委員】 学校との関わりはどないなっていますか。

【大野課長代理】 学校、保育所とか例えば幼稚園から、ちょっとこの子どもさんについて言語が遅いとかそういう情報が入ったときにはちょっと園まで出向かせていただいて、その子どもさんの様子を拝見させていただいたり、そのようなこともさせていただいております。

【田中議長】 ちょっとまとめに入らないかんですが、末光さん、何かございますか。

【末光委員】 さっきの体力向上のお話で目標がというところがあったと思うんですけど、確かに何かあったほうが私たちも意見が言いやすいのかなとかって思うので、まだ始まったばかりと思うので、学校の進め方にもよって違うとは思いますが、最初に言われたSDGsの目標、長く続けていくことによって、最初の定数を、基盤となる基準を持っておかないと、続いたときにどうなったのかがわからないので、まず、何をしても今現在がどんな状態なのかというのは把握しておく必要があるのかなと思いました。それが無いといろんな取組みをしたところで、継続的に3年たったときにどうなったのかということも記録として出ないし、じゃ、やった意味があるのかということを問われたときに回答として出ないのかなと。成果として見せるためには現状を正しく把握しておい

て、そこから。鉄棒することによって、鉄棒だけではなくていろんなものが上がってくると思うんですね。そこをきちっと把握していくということが初年度としては大事なんじゃないかなと思いました。

以上です。

【藤井委員】 各学校で何をやったかがまずわからないから、各学校で何をやって何が伸びたとかそれを出してもらって初めて議論ができると思うので、だからやっぱり、これだけ使います、こんなのできましたじゃなくて、やっぱり何をしたか。個別のこの学校ならこれしました、この学校はこれしました。翌年も違うことをするか同じことをするかね。

【末光委員】 東成区の今の子どもたちがどれだけできるのか、体力がどれだけないのかというの私たちは知らないのですね。平均的に低いのであれば、じゃ、その指標がどこかにあるのであれば、その指標が3年後、これを活動することによって少しでも上がりましたのであるならば、これらの活動が生きたっていう証拠になるんじゃないかなと思うんですけど。

【東方委員】 それに今、3年生か6年生か何か全国的に体力向上で出しているんじゃないですか。

【藤井委員】 あります。5年生ぐらいであると思いますよ。

【東方委員】 そのレベルが全国で今どの辺に行っているかというのは出ているでしょう。

【藤井委員】 出ています。

【東方委員】 大阪はどのぐらいいうか、東成まで出ているかちょっとわからへん。大阪市としては全体この辺にいてというのが、たしかわかっているはずやと思うんやけどね。そんなのも参考にしながら。

【鍋田委員】 それは出てますよ。学年によって違ったりしますよ。今年はこれよかったけど、これがあかんとか。あります。

【東方委員】 そういうのもあわせて考えいったらいい。

【永門委員】 だから、それに基づいて、学校がここを求めるのであれば、区としては体力をつけるところはこの分をやったらどうですかという感じにまた指導もなるわけで、そうすると区全体の子どもの成長が見られるわけやんか。だから、学校はやっぱり弱いところは言うけども、上がっているところは言えへんわな。だから、弱いところのその辺は全体的に上げようと、かさ上げしようということをやったり東成区で考えんと。

【井上課長】 学力と一緒に、体力のほうも学年が単学級の学校というのは公表されていないということなので、学校さんは当然もちろん把握してはるんですけども、我々もわからない。

【永門委員】 でも、データとらんことには前進まんでしょ。

【井上課長】 そういうデータをとるべきなのか、全国共通でやっている学力の項目、種目でとるべきなのか。いや、違いますと。学校ごとに違う物差しで持っていますという学校も当然ありますので、そういう意味で、またそこは基準を学校さんと詰めていかなあかんとは思いますが。

【永門委員】 それは詰めてもらわんと僕らはその基準が分からなくて、要するに全体的な底辺の初歩的な質問で食いついているだけであって。じゃあ、こういうのは見せてくれんと。だから、タブレットも一緒やん。やるときにどうするのというスタートが見えへん。ただ配りますよいうだけで。

【末光委員】 でも、あまりそれによって学校さんの仕事の負担ね。先生経験の方が言われたように、それをすることによってまた先生の負担になったら困るので、今されている基準の運動指標みたいなのをとられているのであればそれでいいと思いますよ。それが2年後、3年後どうなったのかというのを調べるだけで。これ、鉄棒やったからだけで逆上がりができるだけじゃないんですよ。腹筋もつくし、腕力もつくし、腕力着いたらボールも投げられるし、走れるようになるんですよ。ここがつくと。ということで、総合的に体力上がってくると思うので、何をやってもいいと思うんですけど、一生懸命やった結果が、その4年生から6年生ですか、体育指標というのをベースに考えて、学校さんが特別なことをせずとも成果が見えるというやり方をとられたらいいんじゃないかなと思いますけど。

【東方委員】 先生の負担を考えると。

【永門委員】 だから、2年生が……。

【田中議長】 学校であるならよし。わざわざつくってもろうてというんじゃないしに、大阪市は出ていますやんか。何か新聞なんかで全国で大阪市は体力が弱いとか。

【末光委員】 それでええんです。

【田中議長】 それぐらいやったらね。

【末光委員】 無理なくできる。

【田中議長】 そうそう、学校によっては、やっぱり出せないところなんかもあるかも

わからんので。

【永門委員】 だから、20年に入学した子の5年間を追えと言うているわけじゃないのよ。18年の3年生と20年のときの3年生の比較でもできりゃええわけよ。ただ、単純に考えたら、1つの学校に入った子がその6年間でどれだけ向上したということやなくて、単年度ごとのデータしか出えへんやったら、単年度ごとにどれだけ成長したか見たいわけよ。そういう成果も要るわけやんか。ピンポイントで1人の子の成長を見るんじゃないやで、学校全体としての単年度は見られるでしょう。そういうのも欲しいと言っているんやで。わかれへんもん。

【田中議長】 ちょっと時間なので。

【井上課長】 各校長と相談します。

【田中議長】 ありがとうございます。うれしいことに前言いました、ちっちゃいのが大きくなったり、もっと協賛の店舗を増やしてと言ったらほんとうに増えてきましてね。これはもう頑張っていたいただいたなど。これはもう発表したいなと思いますが、いかがでございます。着々とそういうふうにさせていただいているのは、やっぱりね。

主任児童委員さん、どうですか。

【福永委員】 ありがとうございます。配りに行かせてもらっている立場なので、やっぱり、主任児童委員さんってどういうことをされているんですかというのがこういう形で出してもらえると、主任児童委員ですというの、ここ見せるだけでわかってもらえるのでありがたいです。

【田中議長】 やっぱりこういういろんなところから来ていただいて、そういう人も意見をいただいてやっていただくと。これが一番いいことだと思います。

じゃ、1つは申しわけないです。私の独断なんですけど、今の前回の発表したすくすく・つながるクラブについて、我々の意見が反映していただいて協力店が増えた。そして、主任児童委員のちっちゃく載っていたのが右上のほうに載せていただいたとこのように発表させてもらってよろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

【田中議長】 あともう1つは、今のもう長いこと時間かかったこれしかないと思うんですが、体力向上事業でいいですかね。

(「はい」の声あり)

【田中議長】 ここで、ちょっとこの辺、何かまとめるようなご意見ございませんか。

体力向上ですが、どういたしましょう。学校、大阪市の体力のありますやんね。表みたいなの。あれば全国体力テストと大阪市のデータ。

【末光委員】 それは各小学校で何か決められたもので、はかって出されて。それでいいじゃないですか。

【田中議長】 やるのは一緒です。そやから、全国の体力測定と。大阪市も出るんですかね。

【鍋田委員】 多分、大阪市の教育委員会は発表していると思います。

【井上課長】 大阪市平均は出ていると思いますね。ただ、東成平均は多分ないと思うんですよ。各学校も僕、言いましたように、単学級の学校は多分出していないと思うので、区役所側は皆さんおっしゃっていただいた、目標となるような指標となるようないわゆるデータですよ。この全国共通の学力測定だけでやる分じゃなくて、目に見えるようなのがデータがあればということやと私たちは受けとめたので、何かそういうものが出せるかどうか、ちょっと時間ください。工夫してみます。

【田中議長】 もうそれは預けておきます。とりあえず、全国の体力測定、大阪市の測定は出ると思うので、この体力向上事業を使ったところは去年の自分のところのデータよりもちょっとでも上がっているところいうのを目標にしていきたいということでしょうか。

(「はい」の声あり)

【田中議長】 じゃ、そのようにお願いいたします。じゃ、我々の部会はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

<全体会議会議録に続く>